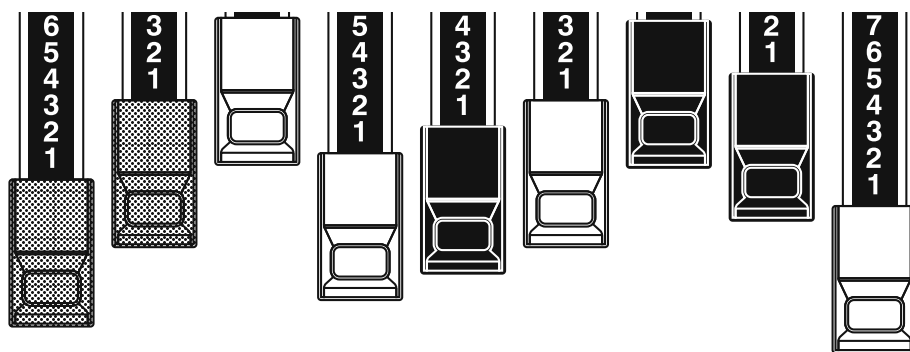




HAMMOND

MIDIサウンドペダルボード

Model: XPK-130G

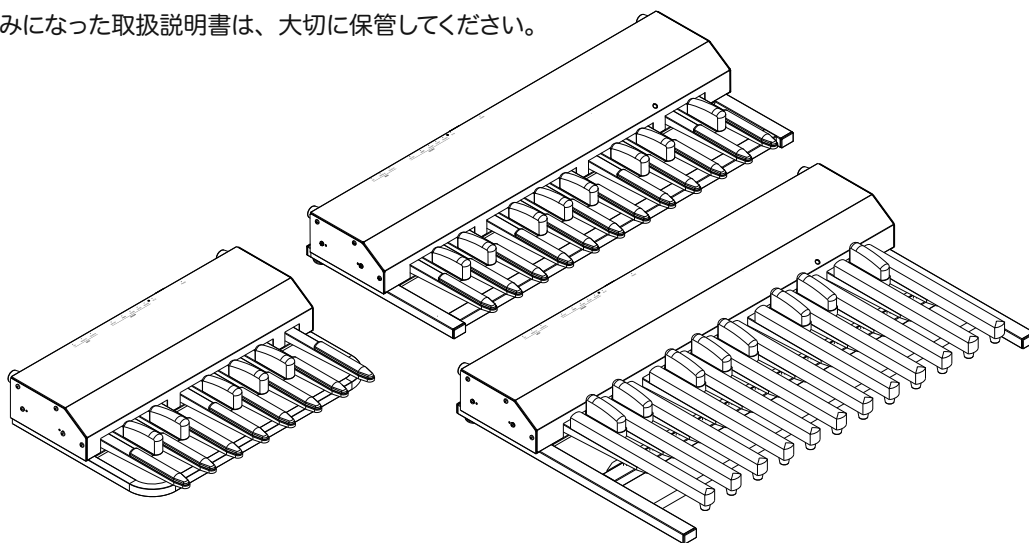
XPK-200G / 200GL

この度は、ハモンド・MIDI サウンドペダルボード XPK-130G/200G/200GL
をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

XPK-130G は 13 鍵、XPK-200G は 20 鍵の MIDI ペダルボードです。
XPK-200GL は XPK-200G にナチュラルな木製の長型鍵を備えたもので、
「ヒール・アンド・トゥ」演奏スタイルを容易に行うことができます。

また本機三機種は内蔵音源により、外部の MIDI 音源を必要としない単体で
演奏可能なベース楽器として使うこともできます。

本製品を末永く、そして安全にご使用いただくため、この取扱説明書をよくお
読みください。お読みになった取扱説明書は、大切に保管してください。



取扱説明書

安全上の注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使い下さい。
- お読みになった後は、必ず保存して下さい。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、下記の指示を必ず守って下さい。
- 本書では、危険や損害の程度を次の区分で表示し、説明しています。



警告

この表示内容が無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



注意

この表示内容が無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的障害が発生する可能性が想定されます。



警告



- 本機及び AC アダプターを分解したり（取扱説明書に記載されている指示を除く）、改造したりしないでください。



- 修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。必ずお買い上げ店または最寄りの鈴木楽器販売に相談してください。



- 次のような場所での使用や保管はしないでください。
 - 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、発熱する機器の上など）
 - 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）
 - 湿気の多い場所
 - 雨に濡れる場所
 - ホコリの多い場所
 - 振動の多い場所



- AC アダプターは、必ず付属の AD1-1210 シリーズを、AC100V の電源で使用してください。



- 電源コードを無理に曲げたり、電源コードの上に重いものを載せたりしないでください。電源コードに傷がつき、ショートや断線の結果、火災や感電の恐れがあります。



- 本機に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対にいれないでください。



- 次のような場合には、直ちに電源を切って AC アダプターをコンセントから外し、お買い上げ店または最寄りの鈴木楽器販売へ修理を依頼してください。

- AC アダプター本体、電源コード、またはプラグが破損したとき
- 煙が出たり、異臭がしたとき
- 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
- 機器が（雨などで）濡れたとき
- 機器に異常や故障が生じたとき



- お子様のいるご家庭で使用する場合、お子様の取り扱いやいたずらに注意してください。必ず大人の方が、監視／指導してあげてください。



- 本機を落としたり、強い衝撃を与えないでください。



- 電源は、タコ足配線などの無理な配線をしないでください。特に、電源タップを使用している場合、電源タップの容量（ワット／アンペア）を超えると発熱し、コードの被覆が溶けることがあります。



- 海外で使用する場合は、お買い上げ店または最寄りの鈴木楽器販売に相談してください。



- 本機の上に水の入った容器（花瓶など）、殺虫剤、香水、アルコール類、マニキュア、スプレー缶などを置かないでください。また、表面に付着した液体は、すみやかに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

注意



- 本機と AC アダプターは、風通しの良い、正常な通気が保たれている場所に設置して、使用してください。



- AC アダプターを機器本体やコンセントに抜き差しするときは、必ずプラグを持ってください。



- 定期的に AC アダプターを拭き、乾いた布でプラグ部分のゴミやほこりを拭き取ってください。また、長時間使用しないときは、AC アダプターをコンセントから外してください。AC アダプターとコンセントとの間にゴミやほこりがたまると、絶縁不良を起こして火災の原因になります。



- 接続したコードやケーブル類は、煩雑にならないように配慮してください。特に、コードやケーブル類は、お子様の手の届かないように配慮してください。



- 本機の上に乗ったり、機器の上に重いものを置かないでください。



- 濡れた手で AC アダプターのプラグを持って、機器本体やコンセントに抜き差ししないでください。



- 本機を移動するときは、AC アダプターをコンセントから外し、外部機器との接続を外してください。また、本機に取り付けられた付属品も取り外してください。



- 本機を持ち運ぶ際には、鍵盤部ではなくフレーム部をお持ちください。鍵盤部を持ち上げると故障の原因になります。



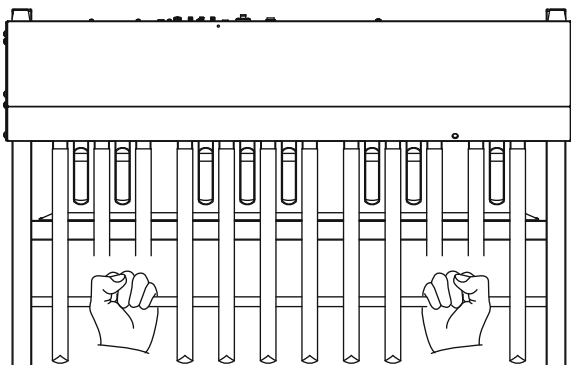
- ケーブル類を接続したまま本機を立てないでください。本機のジャック部分が破損したり、ケーブル断線の原因となります。



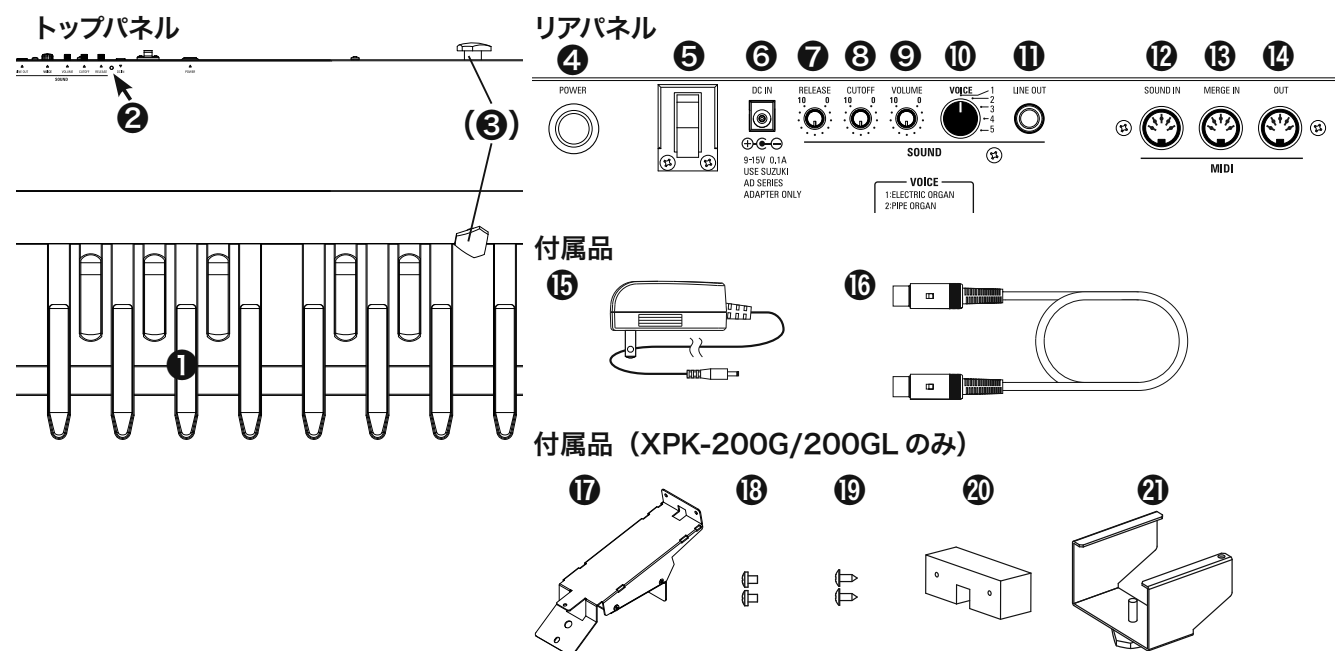
- お手入れをするときには、電源を切って AC アダプターをコンセントから外してください。



- 落雷の恐れがあるときは、早めに AC アダプターをコンセントから外してください。



各部の名称と働き



① ペダル鍵盤

ペロシティ対応の鍵盤です。XPK-130Gは13鍵、XPK-200G/200GLは20鍵です。

② LED ランプ

電源が入っている間は暗く点灯します。また、ペダル鍵盤の演奏状態（演奏時に明るく点灯）を表示します。

③ ノブボルト（2個）（XPK-200G/200GLのみ）

付属の⑩エクспレッションブラケット1の固定に使います。

④ 電源スイッチ

本機電源をオン / オフします。スイッチを押してオンします。電源をオフにするときは1秒間長押しします。

⑤ コードフック

ACアダプターのコードをこれに絡め、コードの抜けを防止します。

⑥ DC IN ジャック

付属の⑮ACアダプターAD1-1210シリーズを接続します。

⑦ RELEASE ツマミ

鍵盤を離れた後、音量が減衰して無音になるまでの時間（リリースタイム）を調節します。

⑧ CUTOFF ツマミ

音の成分及びフィルターの遮断周波数（カットオフ・フリークエンシー）の値を調節します。

⑨ VOLUME（音量） ツマミ

LINE OUT から出力される音の最大値を調整します。

⑩ VOICE セレクター

LINE OUT から出力される内蔵音源の音色を選択します。

⑪ LINE OUT（音声出力） ジャック

内蔵音源の音を外部音響機器に出力するためのオーディオ出力ジャックです。このジャックとベースアンプ、アンプ内蔵スピーカー等の音声入力端子とをつなぎます。

⑫ SOUND IN ジャック

外部MIDI機器で本機の内蔵音源を鳴らしたり、操作するときに使うためのMIDI入力端子です。

⑬ MERGE IN ジャック

MIDI入力端子です。この端子に入力されたMIDI信号は、本機の演奏情報と合わせてMIDI OUT ジャックから出力されます。

⑭ MIDI OUT ジャック

本機の演奏情報とMERGE IN ジャックからの演奏情報を足し合わせて出力します。

付属品

⑮ AC アダプター AD1-1210 シリーズ

本機に電源を供給するDC12VのACアダプターです。

⑯ MIDI ケーブル（2.0 m）

本機と外部MIDI機器等を接続する際に使用するMIDIケーブルです。

付属品（XPK-200G/200GLのみ）

⑰ エクспレッションブラケット1

別売のエクспレッションペダルEXP-100F/50/50J、EXP-20又はV-20Rを載せるための台です。

⑱ M4×5mm ネジ（2個）

エクспレッションペダルEXP-100F/50/50Jを⑰エクспレッションブラケット1に固定するためのネジです。

⑲ φ4×8mm ネジ（2個）

⑳ ブラケットスペーサー

㉑ エクспレッションブラケット2

⑲⑳㉑と⑰エクспレッションブラケット1を使って、エクспレッションペダルEXP-20、V-20Rを本機に固定します。

エクスプレッションペダルの取り付けかた 19

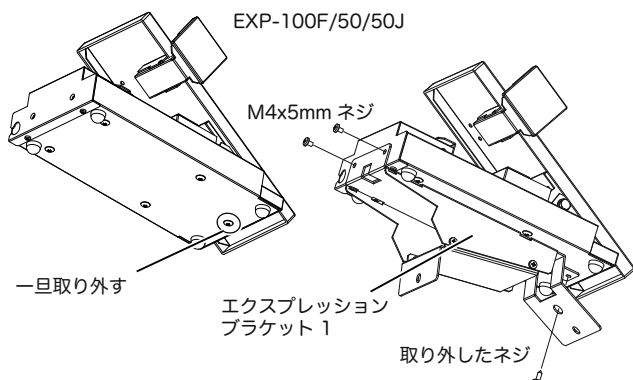
XPB-200G/XPB-200GL のみ

ハモンド・エクスプレッションペダル EX-100F/50/50J 又は EXP-20/V-20R をお持ちの場合、XPB-200G/200GL 本体に取り付けて演奏が可能です。本項をお読みのうえ、お持ちのエクスプレッションペダルを取り付けてください。

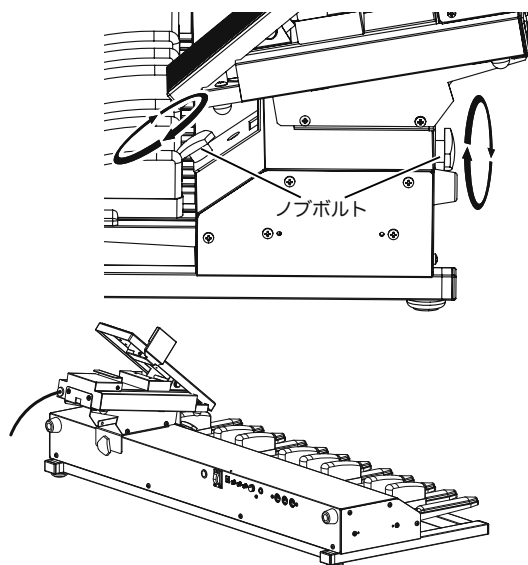
EXP-100F/50/50J の取り付けかた

#2 プラスドライバーをご用意ください。

- ① 下図に示す EXP-100F/50/50J 底面のネジを一旦取り外します。
- ② エクスプレッションブラケット 1 の上に EXP-100F/50/50J を置きます。
- ③ M4x5mm ネジ（先端がとがっていない）を使ってエクスプレッションブラケット 1 に EXP-100F/50/50J を取り付けます。
- ④ 取り外したネジを使ってエクスプレッションブラケット 1 と EXP-100F/50/50J の底面を固定します。



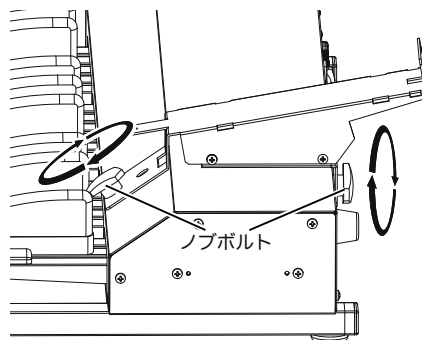
- ⑤ エクスプレッションブラケット 1 を本機の上に置きます。
 - ⑥ 2つのノブボルトを時計方向に回して固定します。
- ⚠ ノブボルトは穴面に対して垂直に取り付けてください。無理に斜めに取り付けると、ネジ穴が破損してしまいます。
- ⚠ エクスプレッションペダルの固定が不完全な状態で演奏を行うと故障の原因となりますので、確実に固定してください。



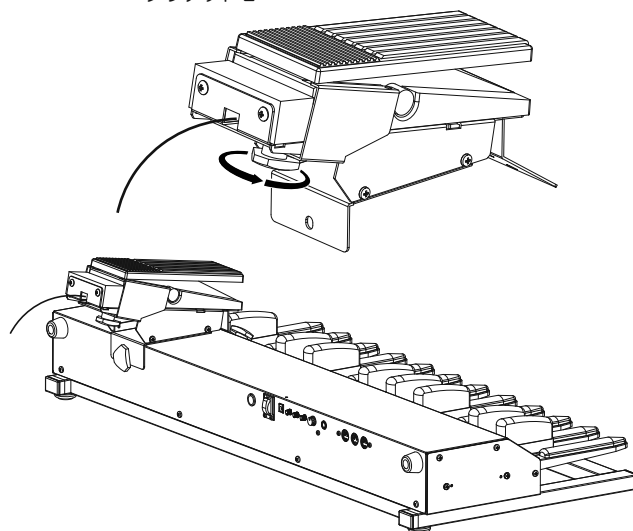
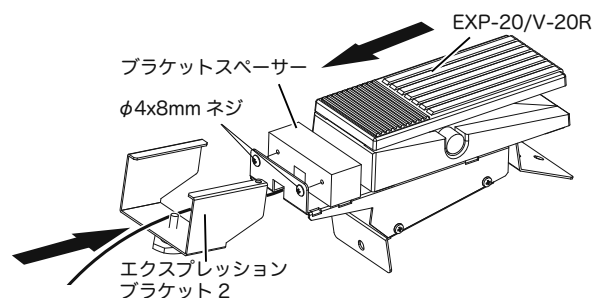
EXP-20/V-20R の取り付けかた

#2 プラスドライバーをご用意ください。

- ① エクスプレッションブラケット 1 を本体に置きます。
 - ② 2つのノブボルトを時計方向に回して固定します。
- ⚠ ノブボルトは穴面に対して垂直に取り付けてください。無理に斜めに取り付けると、ネジ穴が破損してしまいます。
- ⚠ エクスプレッションペダルの固定が不完全な状態で演奏を行うと故障の原因となりますので、確実に固定してください。



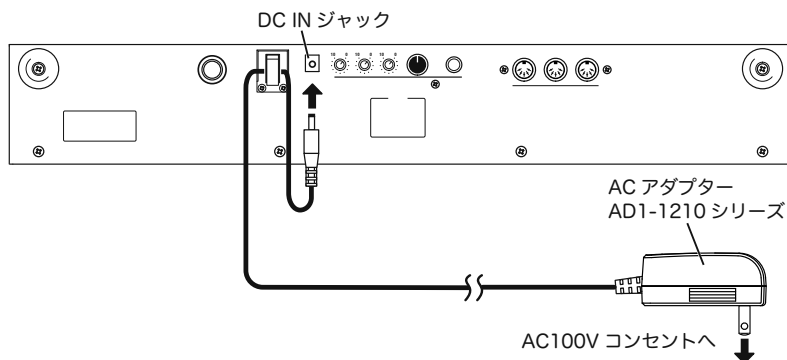
- ③ エクスプレッションブラケット 1 に EXP-20/V-20R を載せ、背面の穴にコードを通します。
- ④ 本機に付属している $\phi 4 \times 8 \text{mm}$ ネジ（先端が尖っている）を使用して、ブラケットスペーサーをエクスプレッションブラケット 1 に固定します。
- ⑤ 下図のようにエクスプレッションブラケット 2 と EXP-20/V-20R をスライドしてエクスプレッションブラケット 1 に取り付け、ノブボルトを時計方向に回して固定します。



接続のしかた

電源の準備

- ① ACアダプター AD1-1210 シリーズのプラグを DC IN ジャックに接続します。
- ② AC アダプターのコードをコードフックに絡めます。
- ③ AC アダプターを電源コンセント (AC 100V) に接続します。



本機にはいくつか使用方法があります。以下、本機の接続例をご紹介します。

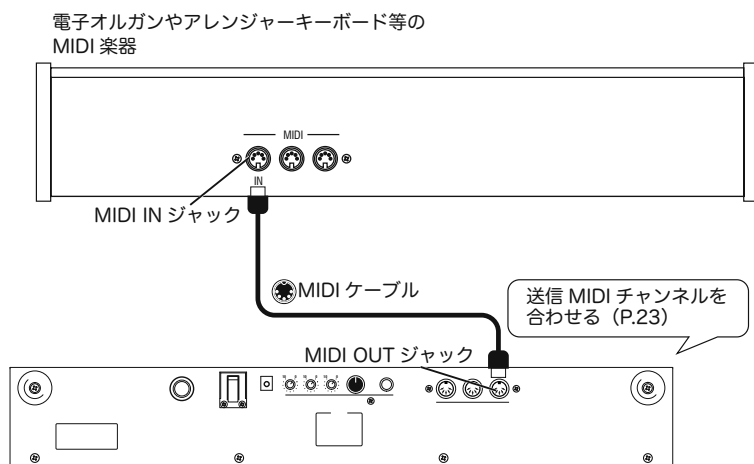
接続例 1: MIDI ペダルボードとして使う

本機を MIDI ペダルボードとして使う場合の接続例です。

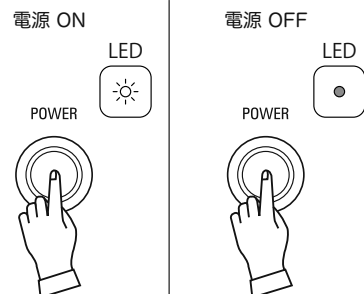
- ① 下図に示すように、本機の MIDI OUT ジャックと使用したい MIDI 楽器の MIDI IN ジャックを接続します。
- ② 本機の送信 MIDI チャンネルと MIDI 楽器側の受信 MIDI チャンネルを合わせます。(本機の送信 MIDI チャンネルの初期設定は「3」です)。

NOTE: 本機の送信 MIDI チャンネルを設定するには、P.23 をご覧ください。

- ③ 本機の電源を入れます。
- ④ 接続した MIDI 楽器が望みどおりに動作するように、必要に応じて MIDI 楽器の説明書を参考に MIDI の設定を行ってください。



tips 電源 ON/OFF のしかた



電源スイッチを押します。
本機の電源が入り、LED が約
1 秒間明るく点灯します。

電源スイッチを 1 秒間長押しし
ます。
本機の電源が切れ、LED が消灯
します。

△ 電源をオン / オフする前に、必ず本機及び接続機器の VOLUME (音量) を 0 にし、先に接続機器の電源を切ってください。

△ 電源が入っている状態でケーブル類の抜き差しを行わないでください。

tips オートパワーオフ

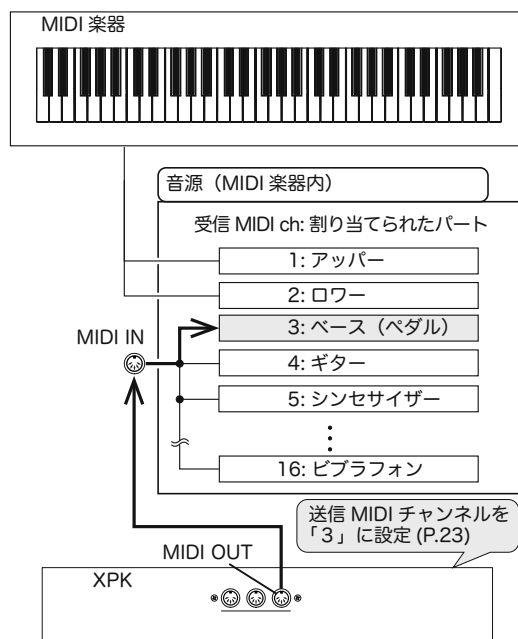
本機は一定時間(初期設定では30分間)操作されないとき自動的に電源が切れます。これをオートパワーオフと呼びます。

オートパワーオフ機能を解除するには、P.24「詳細設定」の「オートパワーオフ」をご覧ください。

tips MIDI チャンネルの設定

本機を MIDI ペダルボードとして使う場合、以下の順番で MIDI チャンネルの設定を行ってください。

- ① MIDI 楽器内でベースパートが割り当てられている MIDI チャンネルを見つけます。
- ② 見つけた MIDI チャンネルに本機の MIDI チャンネルを合わせます。



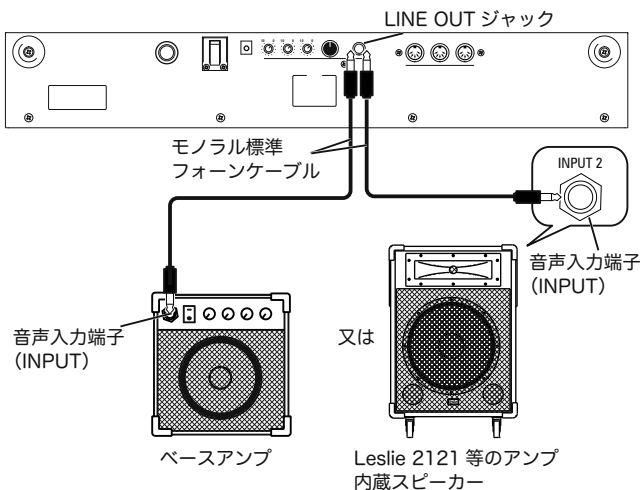
NOTE: 上記の割り当てリストは一例に過ぎず、内容は機器ごとに異なります。

接続例 2: ベース楽器として使う

本機は内蔵音源を使うことにより、MIDI ペダルボードとしてだけでなくベース楽器としても使用できます。

- ① 下の図に示すように、本機の LINE OUT ジャックとベースアンプやアンプ内蔵スピーカー（Leslie 2121 等ベース演奏に適したもの）の音声入力端子とを、又は鍵盤楽器の AUX IN 端子とを接続します。図を参考に、接続先に適したケーブルをご使用ください。

ベースアンプ / アンプ内蔵スピーカーに接続する場合

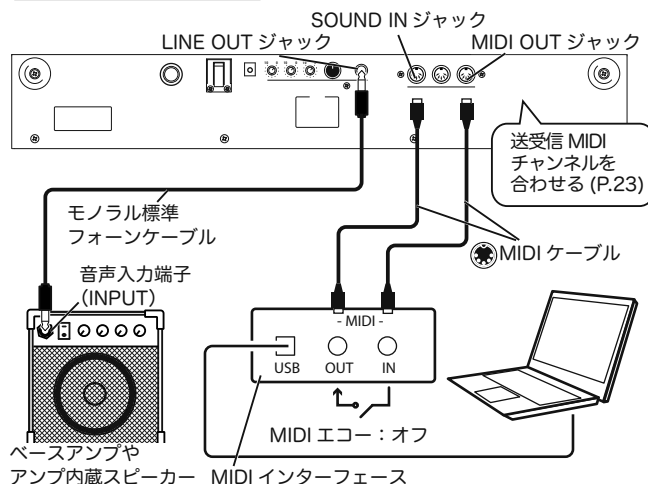


接続例 3: MIDI レコーディング

MIDI の演奏情報を外部シーケンサーに記録・再生するための接続例です。

- ① 必要な接続のタイプに応じて、右下又は左下の図に示すように機器を接続します。
- ② 必ず本機及び接続機器の VOLUME（音量）を 0 の位置にします。
- ③ 本機の送受信 MIDI チャンネルをシーケンサーの MIDI チャンネルに合わせます。（本機の MIDI チャンネルの初期設定は「3」です）。

内蔵音源を使う場合



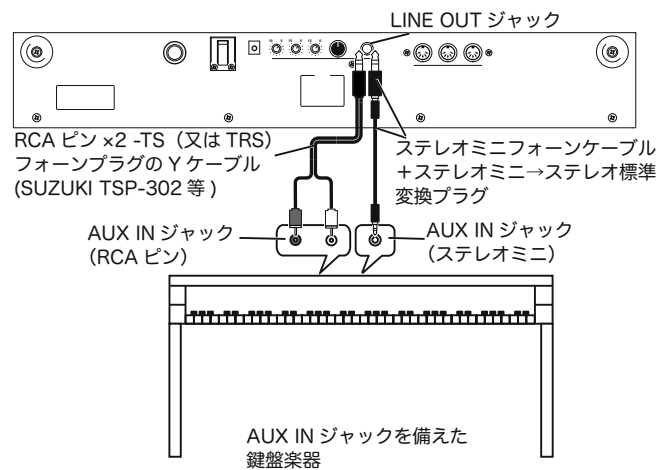
- ② 必ず本機及び接続機器の VOLUME（音量）を 0 の位置にします。

- ③ 本機→接続機器の順番に電源を入れます。

- ④ 本機及び接続機器の VOLUME（音量）を調整します。

NOTE: 本機の音量や音色を調整するには、P.22 をご覧ください。

鍵盤楽器に接続する場合



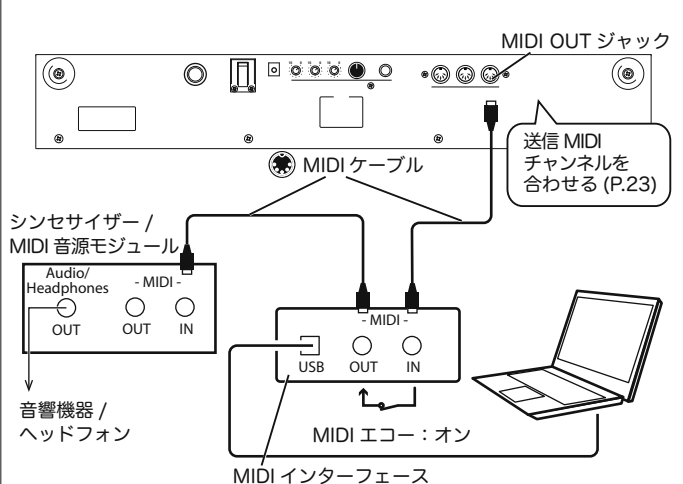
NOTE: 本機の送受信 MIDI チャンネルを設定するには、P.23 をご覧ください。

- ④ 本機→接続機器の順番に電源を入れます。

- ⑤ 左下の接続をした場合、MIDI のループによる誤作動を防ぐためにシーケンサーの MIDI エコーをオフに設定してください。右下の接続の場合は、シンセサイザーを鳴らすために MIDI エコーをオンにします。

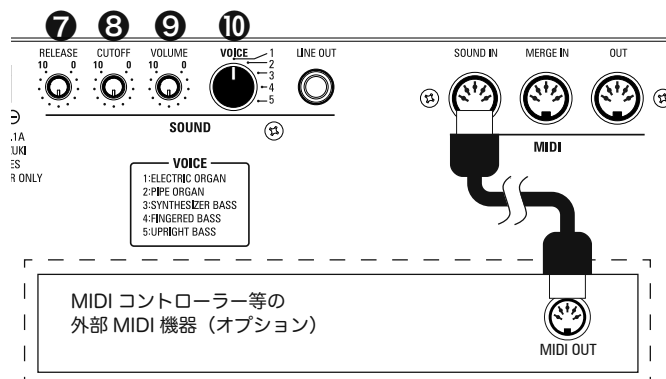
NOTE: 左下の接続において本機の音量や音色を調整するには、P.22 をご覧ください。

外部シーケンサー / MIDI 音源モジュールを使う場合



内蔵音源を使う

本機は音源を搭載しているため、LINE OUT ジャックから音声入力が可能です。以下の段落では、内蔵音源に関連する本機の各コントロールについて説明します。



音色を選ぶ

⑩ VOICE セクター

搭載された 5 つの音色から一つを選択します。

- | | |
|--|-----------------------------------|
| 1. ELECTRIC ORGAN
<small>エレクトリック オルガン</small> | 電気オルガンのサウンドです。 |
| 2. PIPE ORGAN
<small>パイプ オルガン</small> | 教会等で演奏されるパイプオルガンのサウンドです。 |
| 3. SYNTHESIZER BASS
<small>シンセサイザー ベース</small> | ポルタメント可能で「ピャオツ」というスウィープのシンセベースです。 |
| 4. FINGERED BASS
<small>フィンガー ベース</small> | エレクトリックベースを指で弾いた時のサウンドです。 |
| 5. UPRIGHT BASS
<small>アップライト ベース</small> | ウッドベースのサウンドです。 |

サウンドを調整する

⑨ VOLUME (音量) ツマミ

本機 LINE OUT からの出力音量を調整します。右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。

⑧ CUTOFF ツマミ

音の遮断周波数（カットオフ・フリークエンシー）を調整します。値を上げるにつれて明るい音になります。「0」の位置で最小、「10」位置で最大の遮断周波数となります。

⑦ RELEASE ツマミ (ペダルサステイン)

リリースレイト（鍵盤を離した後の減衰時間）を調整します。ツマミの値を上げるほど、離鍵後によりゆっくりと減衰する音になります。ツマミ0の位置で離鍵後すぐに無音になります。

NOTE: CUTOFF ツマミと RELEASE ツマミの詳細な動きについては、右上の「tips」 「CUTOFF の調整」及び「RELEASE の調整」をご覧ください。

MIDI で本機のパラメータをコントロールする

MIDI コントローラー等の外部 MIDI 機器をつかって、本機の以下のパラメータを MIDI 信号で遠隔操作できます。

VOICE	プログラムチェンジ# 1 ~ 5
CUTOFF	コントロールチェンジ# 7 4
RELEASE	コントロールチェンジ# 7 2
EXPRESSION	コントロールチェンジ# 1 1 (クレッシェンド&デクレッシェンド)

NOTE: 本機の「VOLUME」は MIDI ではコントロールできません。

上記図のように接続し、本機の受信 MIDI チャンネルと外部 MIDI 機器の送信 MIDI チャンネルを合わせてください。

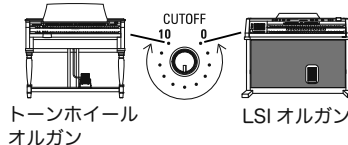
NOTE: 本機の受信 MIDI チャンネルを設定するには、P.23 をご覧ください。
MIDI 信号の送信をするには、各 MIDI コントローラーの取扱説明書をご覧ください。

tips CUTOFF の調整

CUTOFF ツマミによって調整される音の成分は、VOICE セクターで選択されている音色ごとに少しずつ異なります。

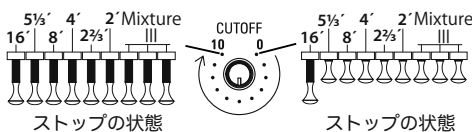
○ELECTRIC ORGAN 選択時

値を小さくすると LSI オルガンに、値を大きくするとトーンホイールオルガンの音に近づきます。



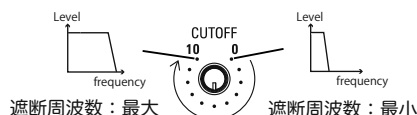
○PIPE ORGAN 選択時

値を上げると、エミュレートされたパイプオルガンのストップレバーが低い音の物から高い音の物の順番に引き出されます。



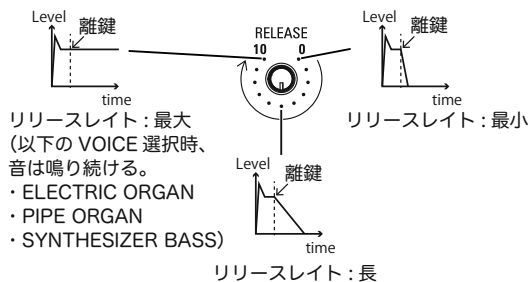
○上記以外の音色選択時

遮断周波数（カットオフ・フリークエンシー）を調整します。値を上げると遮断周波数の値が大きくなります。



tips RELEASE の調整

RELEASE ツマミは以下の図のように働きます。



tips 各音色の発音域

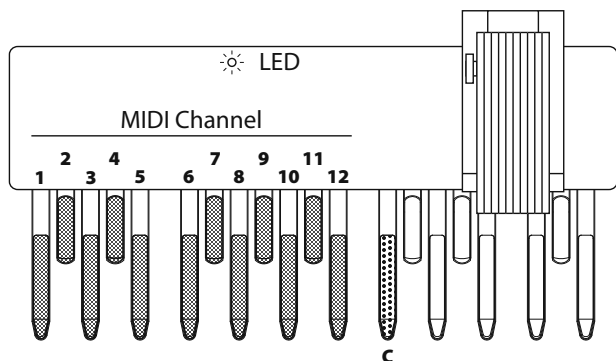
本機の各音色の発音域はすべて同じで、下のダイアグラムに示す発音域を持ちます。XPK-200G/200GL は XPK-130G より鍵盤数が多い分、広い音域を持ちます。



NOTE: 実際の発音域は、上のダイアグラムに記譜された音の 1 オクターブ下になります。

NOTE: 本機単体では鍵盤数分の音域しか鳴らせませんが、SOUND IN ジャックで約 4 オクターブ分の MIDI 信号（ノートナンバー 36 ~ 84）を受信し、発音することが可能です。

送受信 MIDI チャンネルの設定



以下の操作により、本機が送受信する MIDI チャンネルを変更することができます。設定可能な MIDI チャンネルは「1」～「12」です。工場出荷時は「3」に設定されています。

NOTE: 本機の送信 MIDI チャンネルと受信チャンネルは共通です。以下の操作によって、送受信チャンネルの両方が同時に変更されます。送信と受信で別々のチャンネルを選ぶことはできませんのでご注意ください。

- ① 高いほうの「C(ド)」のキーと選択したい MIDI チャンネルに相当するキーを押します（左の図を参照）。
- ② キーを押したまま電源を入れます。

本機上部の LED が選択した MIDI チャンネルの回数ぶん点滅し、設定は完了します。

NOTE: 設定した送受信 MIDI チャンネルは電源を切っても記憶されています。

MIDI マージ機能について

本機は、MERGE IN ジャックで受信した演奏情報（MIDI 信号）と本機内部の演奏情報をマージして（足し合わせて）MIDI OUT ジャックから送信する機能を装備しています。

⚠ MIDI マージの注意点

MIDI マージ機能を使うにあたって、いくつかの注意点があります。

マージが行われる MIDI メッセージ

本機の MIDI マージ機能はチャンネルメッセージに対してのみ働きます。システムエクスクルーシブメッセージやクロックといったシステムメッセージはマージされません。

MIDI チャンネルの重複

本機の MIDI チャンネルと MERGE IN ジャックに接続した MIDI キーボード等の MIDI チャンネルが同一の値に設定された場合、正常に演奏を行うことはできません。MERGE IN ジャックに接続する MIDI キーボード等の送信 MIDI チャンネルは、本機の送信 MIDI チャンネルとは違う MIDI チャンネルをご使用ください。

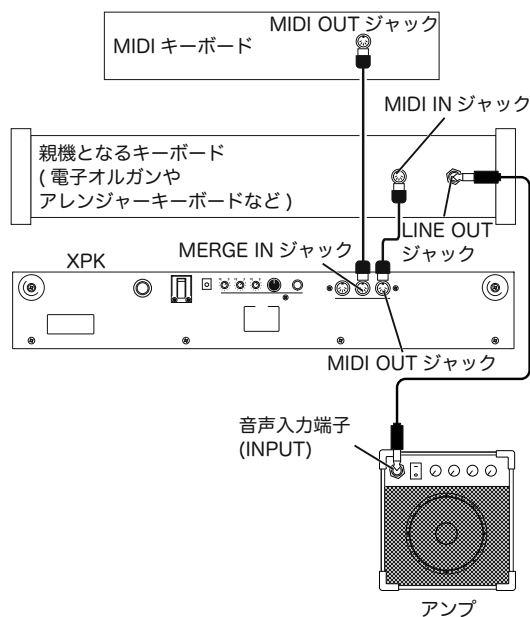
MIDI のループ

本機の MIDI OUT ジャックから送信された MIDI 情報が再び本機の MERGE IN ジャックや SOUND IN ジャックへ入ると、MIDI 情報のループが発生し、誤動作が起こります。

本機の MERGE IN（又は SOUND IN）/MIDI OUT と外部機器の MIDI OUT/IN を相互に接続する場合は、外部機器のエコーバック機能又はローカルコントロール機能をオフにしてください。

tips MIDI マージを使って 3 段鍵盤接続

3 段鍵盤を構成する際、本機の MIDI マージ機能を使うことで、たとえ親機となるキーボードに MIDI IN ジャックが一つしかなくても、本機と MIDI キーボードの両方を親機に接続することができます。下図のように接続します。

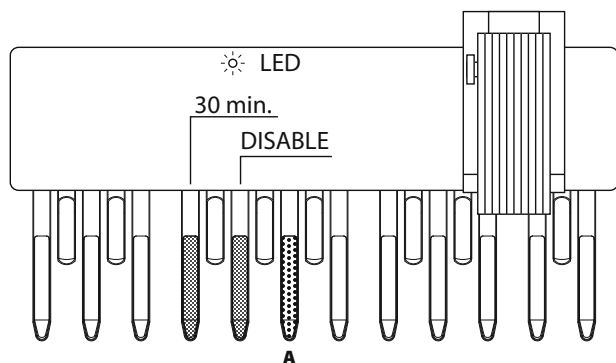


詳細設定

以下の5つの詳細設定を変更することができます。

NOTE: 設定は保存され、電源を切っても記憶されています。

オートパワーオフ



本機が一定時間操作されない場合、自動的に電源が切れるかどうかを設定します。工場出荷時は「30 分」に設定されています。

- ① 「A(ラ)」のキーと、変更したいバリュウに相当するキーを押します(左の図を参照)。

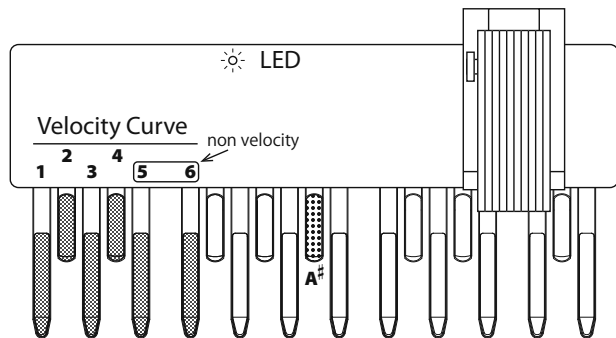
30 min. 最後に操作 / 演奏から約 30 分経過すると電源が切れる設定です。

DISABLE オートオフ機能は無効で、電源は ON のままになる設定です。

- ② キーを押したまま電源を入れます。

本機上部の LED が 5 回点滅し、オートパワーオフの設定が変更されたことを示します。

ベロシティカーブ



ベロシティカーブを変更することにより、演奏の強弱がどの程度演奏の抑揚として反映されるかを決めることができます。「1」～「6」のカーブを選択できます。工場出荷時、本機のベロシティカーブは「5 (ノン・ベロシティ)」に設定されています。「1」は最も際立ったベロシティカーブで、「4」は最も緩やかなカーブです。「2」と「3」はその中間のカーブとなります。

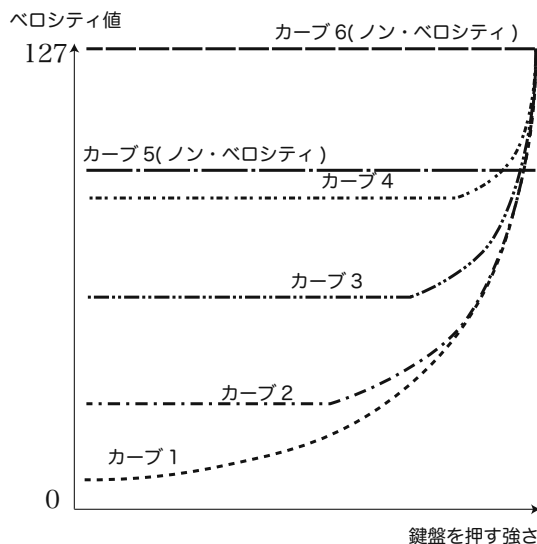
- ① 「A#(ラ#)」のキーと、希望の値に対応するキーを押します(左の図を参照)。

- ② キーを押したまま電源を入れます。

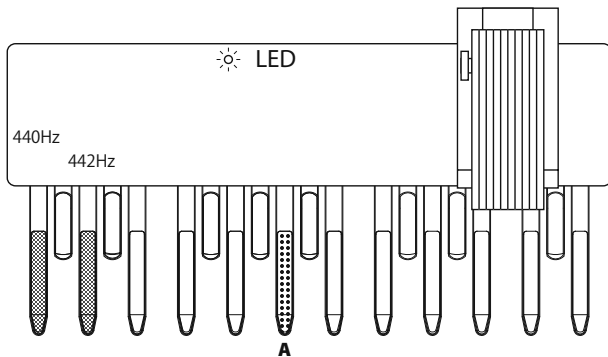
本機上部の LED が設定した値の回数だけ点滅し、ベロシティカーブが変更されたことを示します。

tips ベロシティカーブ

設定できるベロシティカーブのグラフは以下のようなものになります。演奏の強弱に対して、カーブ1が最も広範囲にベロシティ値が変化し、カーブ5、6でベロシティなしの演奏ができます。



マスターチューニング



必要に応じて、本機内蔵音源のマスターチューニングの周波数を変更できます。選択できる周波数は A=440Hz 又は A=442Hz です。

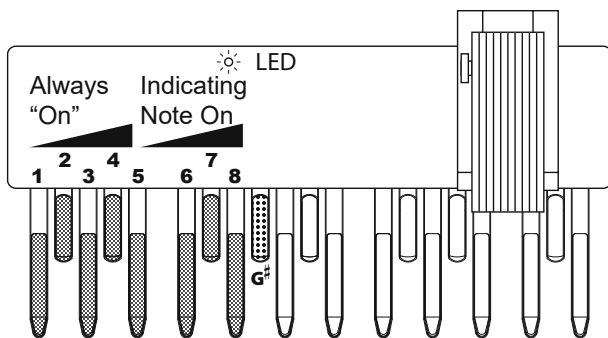
工場出荷時は A=440Hz に設定されています。

① 「A(ラ)」のキーと、変更したいバリューに相当するキーを押します(左の図を参照)。

② キーを押したまま電源を入れます。

本機上部の LED が 3 回点滅し、マスターチューニングが変更されたことを示します。

LED の明るさ



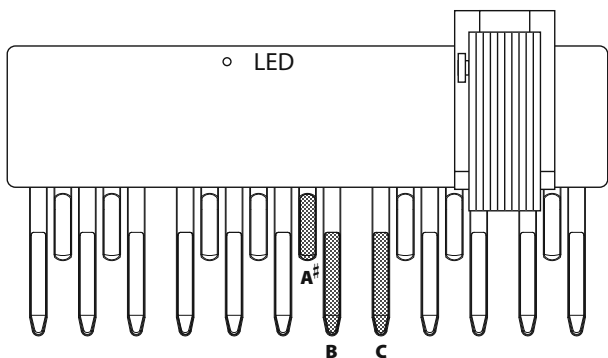
必要に応じて、LED の明るさや点灯モードを変更することができます。「1」から「8」を選択することができ、工場出荷時は「8」に設定されています。

① 「G#(ソ #)」のキーと、変更したいバリューに相当するキーを押します(左の図を参照)。

② キーを押したまま電源を入れます。

本機上部の LED が設定した値の回数だけ点滅し、LED の明るさが変更されたことを示します。

工場出荷時の設定に戻す



工場出荷時と同じ設定に戻すには、以下の手順を行ってください。

① 「A#(ラ #)」、「B(シ)」、「高い C(ド)」のキーを押します(左の図を参照)。

② キーを押したまま電源を入れます。

本機上部の LED が点灯直後に約 1 秒間消灯し、本機が工場出荷時の設定に戻ったことを示します。

MIDI インプリメンテーション・チャート

Hammond MIDI sound pedalboard
Model:
XPK-130G/XPK-200G/XPK-200GL

MIDI Implementation Chart

Date: 23-Jun.-2017
Version: 1.0

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default Changed	3 1 - 12	3 1-12	
Mode	Default Messages Altered	3 X *****	4 X X	
Note Number	: True Voice	36 - 48 36-55 *****	36-84 36-84	XPK-130G XPK-200G/200GL
Velocity	Note ON Note OFF	O X	O X	
After Touch	Key's Ch's	X X	X X	
Pitch Bend		X	X	
Control Change	11	X	O	Expression Release Cutoff
	72	O	O	
	74	O	O	
Program Change	: True #	O 0 - 4	O 0 - 4	Voice 1 - 5
System Exclusive		X	X	
System Common	: Song Position : Song Select : Tune	X X X	X X X	
System Real Time	: Clock : Commands	X X	X X	
Aux Messages	: All Sounds Off	X	O	(120)
	: Reset All Controllers	X	X	(121)
	: Local On/Off	X	X	
	: All Notes Off	X	O	(123 - 127)
	: Active Sense	O	O	
	: Reset	X	X	

Mode 1: OMNI ON, POLY Mode 2: OMNI ON, MONO
Mode 3: OMNI OFF, POLY Mode 4: OMNI OFF, MONO

O: Yes
X: No

	XPB-130G	XPB-200G	XPB-200GL
音源	バーチャルアナログ音源（モノフォニック，24bit 32kHz）		
鍵盤	13 鍵 ペロシティ対応	20 鍵ペロシティ対応	木製 *1 20 鍵ペロシティ対応
接続端子	DC IN, MIDI OUT, MERGE IN, SOUND IN, LINE OUT		
コントロール	VOICE, VOLUME, CUTOFF, RELEASE		
寸法 *2	560(W) x 400(D) x 105(H)mm	872(W) x 400(D) x 115(H)mm	872(W) x 560(D) x 115(H)mm
重量 *2	7.7kg	12.7kg	15.4kg
付属品	AC アダプター AD1-1210 シリーズ MIDI ケーブル (2.0m)	AC アダプター AD1-1210 シリーズ MIDI ケーブル (2.0m) エクスプレッションブラケット 1,2 M4 x 5mm ネジ (2 個) φ4 x 8mm ネジ (2 個) ブラケットスペーサー	

*1 白鍵のみ。

*2 付属品を除く。

保証規定

1. 説明書の注意に従った正常な使用状態で故障した場合は、お買い上げ後 1 年間、無料で修理いたします。
2. 保証期間内に万一本製品が故障した場合には、お買い上げの販売店または本紙に記載の鈴木楽器各営業所にご依頼の上、修理に関して本証をご提示ください。
3. 保証期間内でも次の場合は有料修理になります。
 - イ お買い上げ後の輸送、移動時のお取り扱いが適当でないために生じた故障、損傷の場合。
 - ロ 誤用、乱用および取扱い不注意による故障、損傷の場合。
 - ハ 火災、地震、水害及び盗難などの災害による故障。
 - ニ 離島および離島に準じる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
 - ホ 不当な修理や改造及び異常電圧に起因する故障。
 - ヘ 本証の提示がない場合及び必要事項（お買い上げ日、販売店名等）の記入がない場合。

4. 本証は日本国内にのみ有効です。

This warranty is valid only in Japan.

※この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

お客様へのお願い

1. 本証にお買い上げ日が記入されているかお確かめください。
2. 本証は、特別な場合（天災、盗難等による消失）を除き再発行致しかねますので、大切にご保存ください。
3. ご転居後の故障の場合の修理については、取扱説明書に記載の当社営業所にお申し付けください。

アフターサービスについて

1. この商品には保証書を前項に添付しております。所定の事項の記入後、記載内容をご確認の上大切に保管して下さい。
2. 保証書の記載内容によりお買い上げ販売店が修理いたします。その他、詳細は保証書をご覧ください。
3. 保証期間が切れましても、修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理いたします。
4. アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはもよりの営業所にお問い合わせ下さい。

製造元 **株式会社 鈴木楽器製作所**
〒430-0852 静岡県浜松市中区領家2-25-12 ☎ (053) 461-2325

事務所移転等のため、住所・電話番号が変わる場合がございます。
最新の情報に関しましては、弊社ホームページをご覧ください。



<http://www.suzuki-music.co.jp/>

メールでのお問い合わせは下記まで
info@suzuki-music.co.jp

Printed In Japan
00457-40203 V1.20-200331